

1月 活動報告書

エクアドルのお正月は、特に特別な行事や伝統的な儀式を行わないことが一般的で、友達にきいても、たくさん寝て、親戚や家族とご飯をたべたりするだけだと言っていました。かなりシンプルなお正月を過ごしました。



「Torta de Reyes」を食べました。これは、スペインやラテンアメリカの伝統的なケーキで、主に1月6日の「エピファニー」(公現祭)に食べられます。このケーキは、通常、フェーブ(小さな陶器の人形)や金色の王冠が入っており、見つけた人が幸運を得られるというものです。日本で言うおみくじみたいな感覚です。私は6日以外に2回も食べる機会がありましたが、ゲットすることができませんでした。

休日は、家族でエクアドルの伝統料理セビーチェを作りました。レモンやライムの酸味が効いたさっぱりとした味わいで美味しすぎて幸せな時間でした。次回はみんなで日本食を作りたいです。





最近、授業でエンパナーダを作る機会がありました。初めてその工程を見たのですが、思ったよりもずっと簡単で驚きました。生地は、緑のバナナを茹でたものをすりおろして、茹で汁と混ぜるだけで、具材には肉や野菜、チーズなどさまざまな選択肢があり、自分の好みに合わせて楽しむことができます。日本でも作ってみたいと思います。





今日は学校が終わった後、友達の家へ寄ってお昼ごはんを一緒に食べました。友達の家での食事はとても楽しく、普段の学校生活とは違ったリラックスした雰囲気の中で、いろいろな話をしながら食事を楽しむことができました。その後、友達と一緒にバスケットボールをすることにしました。こちらの高校生活は遊ぶ機会が少ないため、こうした高校生らしい思い出を作ることができて本当に良かったです。友達と一緒に過ごす時間は、スペイン語の勉強や日常生活のストレスを忘れさせてくれる大切な時間です。これからも、こうした楽しい思い出をたくさん作っていきたいと思います。





留学生のための中間オリエンテーションに参加した際、私は自分のスペイン語のスキルが成長していると思っていましたが、実際に他の国から来た学生たちと交流してみると、その期待は裏切られました。彼らが流暢にスペイン語を話し、積極的にコミュニケーションをとる姿を見て、自分の言語能力の未熟さを痛感しました。特に、会話の中で自分の意見や感情を表現することができず、もどかしさや孤独感を感じました。このオリエンテーションは、異文化交流の貴重な機会であるはずなのに、私にとっては逆に辛い時間となってしまいました。周りの学生たちが楽しそうに会話を交わす中で、自分だけが取り残されているような気持ちになりました。これまでの半年間、スペイン語の勉強に励んできたつもりでしたが、その努力が十分ではなかったことを思い知らされ、正直なところ、悲しく、悔しい気持ちになりました。この経験を通じて、言語学習は単なる文法や単語の習得だけではなく、実際に使う場面での自信やコミュニケーション能力が重要であることを再認識しました。今後は、もっと積極的に会話の機会を増やし、他の留学生とも交流を深めたいと思います。

休み時間に友達から日本の心霊系の遊びについて尋ねられたことがきっかけで、私たちは「こっくりさん」をみんなでやることになりました。私にとっては初めての体験だったので、インターネットで情報を調べながら進めました。しかし、結局のところ何も起こらず、少し拍子抜けしてしまいました。それでも、家族からは「その遊びはしないでほしい」と強く言われました。日本の学校には怪談や心霊にまつわる話が多く存在するように、エクアドルの学校でも同様の伝承がありました。心霊現象に関する信じるかどうかは、個々の判断に委ねられるという点は、全国どこでも共通しているのが興味深いです！



餃子を作ったところ、ホストシスターがとても気に入ってくれたので、嬉しかったです。また、友達からも「これは何？」とメッセージが届き、他の国の食べ物に興味を持ってくれることに感謝しています。

今月から週に二回、部活動のような新しい活動が始まりました。こっちに来てからというもの、運動量が大幅に減少していたため、かなり疲労がたまりましたが、そんな中でも新しい友達ができたことはとても嬉しく、楽しい時間を過ごすことができました。同時に帰国後の体育の授業が心配になりました。